

SUPPLEMENT TO GENES GENET.SYST.(2022)97(1) February 2022

GSJ コミュニケーションズ

PROCEEDINGS OF THE SOCIETY



GENETICS SOCIETY OF JAPAN (GSJ)

◆創立1920年◆

公益財団法人 遺伝学普及会 日本遺伝学会

<https://gsj3.org>



目 次 頁

2022年度日本遺伝学会年会費ご納入のお願い	3
日本遺伝学会第94回大会へのお誘い	4
日本遺伝学会第94回大会ご案内	5
お知らせ	5
槽別 Giorgio Bernardi 博士への追悼文 脊椎動物におけるゲノムのアイソコア構造と進化 五條堀孝・遠藤俊徳	6
日本遺伝学会第93回大会(東京) 収支報告書	8
The 2021 Multiomics and Precision Medicine Joint Conference (2021MOPM) 体験報告	9
日本遺伝学会木原及び奨励賞候補者推薦のお願い	11
2022年度日本遺伝学会木原賞候補者推薦書	12
2022年度日本遺伝学会奨励賞候補者推薦書	14
● 本 会 記 事 ●	
会員異動	16

2022年度日本遺伝学会年会費ご納入のお願い

平素より皆様には日本遺伝学会の発展に対し、いろいろとご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、2022年度日本遺伝学会年会費を、下記郵便振替口座または、クレジットカード払いにご納入下さいますよう、よろしくお願いいたします。

なお、年会費のご納入につきましては、当学会 HP (<https://gsj3.org>) の入退会・年会費の会費納入記録をお確かめいただきますようお願い致します。

普通会員	10,000円
学生会員 ^(注1*)	3,000円 (学生会員は初年度会費は免除)
シニア普通会員	6,000円
シニア永年会員	初回のみ 30,000円, 以降の年会費は免除
教育会員	2,000円

(注1*) 学部学生と大学院生が対象です。郵便振込の場合、振替用紙の通信欄に指導教員のお名前をご記入ください。入会申請後に、在学証明書をFAX、あるいは電子メールの添付ファイルにて事務局までお送りください。上記の手続きが完了した場合のみ、初年度会費が免除されます。

●郵便振替の場合

口座名義 日本遺伝学会
口座番号 00890-1-217316

●他の金融機関(ATM)から、ゆうちょ銀行の口座へ振込・振替をされる場合

***** 他金融機関からの振替口座番号 *****

- ・店名 ○八九(ゼロハチキュウ)
- ・預金種目 当座預金
- ・口座番号 0217316

*お手数料が別途かかります。

日本遺伝学会第94回大会へのお誘い

日本遺伝学会第94回大会 大会委員長 遠藤 俊徳
(北海道大学 大学院情報科学研究院)

第94回大会は北海道大学工学部において2022年（令和4年）9月14日（水）から17日（土）の日程で開催予定です。情勢次第でオンライン開催となる可能性はありますが、対面とのハイブリッドの計画です。よろしければ、カレンダーへご記入をお願いいたします。主要な情報は大会ホームページ（<https://api.ibio.jp/gsj94>）にて順次公開いたします。

大会プログラムは例年同様に、シンポジウム、一般講演、ワークショップ、大学院修士課程以下の学生を対象とするポスター発表を行います。シンポジウムは国内・国際の2つを計画中です。例年通りワークショップも公募します。奮ってご応募ください。

BP賞、YBP賞はやはり会期中が感動も大きいということで、昨年に引き続き3日目の総会にて発表します。最後までワクワクしながらご参加いただければと思います。研究室等での旅費支援が難しい学生には、学会からの支援制度があります。育児・介護等に関連した事情への柔軟な支援制度もあります。ぜひご活用ください。

9月17日には、市民公開講座「次々と現れる新型コロナウイルス変異株の進化遺伝学」を開講します。市民公開講座を銘打っていますが、この分野の最先端の研究者を集めており、会員の皆様のご参加も大歓迎いたします。ぜひ、併せて予定に加えてください。実はこのタイトル、科研費成果公開費の申請に合わせて決まったものですが、コロナ収束後の開講になる想定で、その後のオミクロン株の大流行は想定外でした。これを最後に流行が収まることを願っています。

最近の札幌は、お盆を過ぎても寒すぎることもなく、過ごしやすい時期です。広大なキャンパスには、巨大樹のポプラ並木と原生林、かつて鮭が遡上したというサクシュコトニ川、北大の校章デザインにも使われている天然記念物のオオバナノエンレイソウやクロユリ等、希少生物の見られる場所、農場、牧場、文化遺跡、博物館、文書館などがあります。木原均博士が小麦の研究を始めたことを記念した小麦記念碑、クラーク博士や新渡戸稲造博士の像、「人工雪誕生の地」碑等、歴史的な碑も多々置かれています。夏～秋の味覚に恵まれる時期でもあり、雄大な自然にも囲まれ、大会以外にも楽しみが多いことでしょう。

皆様のご参加をお待ち申し上げます。

日本遺伝学会 第94回大会のご案内

会 期 2022年 9 月14日(水)~17日(土)
(17日は市民公開講座のみ)

会 場 北海道大学工学部
(〒060-0813 北海道札幌市北区北13条西 8 丁目)
※ハイブリッド開催の予定ですが、オンラインに変更の可能性があります。

大会委員長 遠藤俊徳 (北海道大学 大学院情報科学研究院)

★★★ 皆様のご参加を心よりお待ちしております ★★★

お知らせ

日本遺伝学会100周年記念事業として進めていた「遺伝学の百科事典」が、多くの皆様のご協力により1月28日に発刊しました。妥協せずに作り上げ、生命科学に関する叡智を結集した重要な書籍となっています。ぜひ多くの方に読んでいただきたいです。

岩崎博史 (日本遺伝学会会長)
小林武彦 (「遺伝学の百科事典」編集委員長)
池村淑道 (「遺伝学の百科事典」編集幹事)

『遺伝学の百科事典』

(※定価：本体22,000円+税)
丸善出版 ISBN：978-4-621-30660-4



【書店にない場合のお問合せ先】

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2 丁目17番 神田神保町ビル 6 階 丸善出版株式会社 企画・編集部 第1グループ
ご担当：木下岳士様 電話：(03)3512-3261 FAX：(03)3512-3272 E-mail：genetics@maruzen.co.jp

惜 別

Giorgio Bernardi 博士への追悼文 脊椎動物におけるゲノムのアイソコア構造と進化

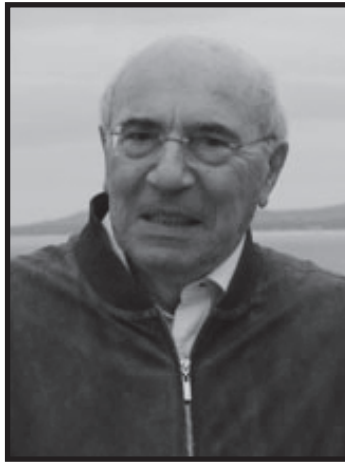
アブドラ国王科学技術大学 五條堀孝, 北海道大学大学院情報科学研究院 遠藤俊徳

Giorgio Bernardi 先生との最初の出会いは、五條堀が1980年代の後半に池村淑道先生からの

ご紹介で知り合いました。五條堀は、パリのジャック・モノー研究所の研究室を訪問して、そこでお会いしたのが最初であったと思います。遠藤はその後に五條堀が主催した1996年の熱海での国際シンポジウムでお会いしたのが最初であったと記憶しています。温血動物のゲノムモザイク構造である Isocore (アイソコア) について話されたのが、当時としてはヒトゲノムの全体構造を俯瞰するような仕事は非常に少なかったので、とても印象的でした。ゲノムの局所

的塩基組成がアイソコア構造を構成し、染色体バンドや遺伝子の発現量とも関係して、進化に寄与してきたというお話でした。五條堀と遠藤が1993年に最初に取り組んだ課題がゲノムの局所的 GC 含量と染色体バンド、進化速度の関係でした。当時の DNA データベースはデータ量が十分ではなかったけれども、俯瞰的にゲノム構造を塩基配列情報の視点で調べることの重要性をいち早く認識してウイルスゲノムなどで既に研究をしていた五條堀は Bernardi 先生の話に共感すると共に、遠藤は大いなる刺激を受けました。当時、Bernardi 先生は International Society of Molecular Evolution (ISME) の Chairman でありましたが、若い人々にはいつも優しく勇気づけてくれる研究者でありました。日本遺伝学会への紹介者である五條堀とは、この

頃から非常に親しいお付き合いが始まったように思います。



Giorgio Bernardi 先生
<http://www.giorgiobernardi.eu/>より

Bernardi 先生は、1998年にナボリの動物実験所 (Stazione Zoologica Anton Dohrn) 所長に就任されると、分子進化を研究の中心の一つに据えることを決定し、その方向づけを果敢に実施されました。この研究所は1872年に設立され、世界最古の水族館を併設した名実ともに伝統ある海洋生物学研究所として世界的に著名です。

1997年の1月にはコスタリカで Symposium of the International Society of Molecular Evolution on Junk DNA: the

Role and the Evolution of Non-Coding Sequences: Guanacaste, Costa Rica, in honour of Emile Zuckerkandl という長いタイトルのシンポジウムが Bernardi 先生の主催で開催されました。このシンポジウムはシリーズ化され、コスタリカ大学 (Universidad de Costa Rica) の学長やその関係者が Bernardi 先生のお弟子さんだったりしたため、彼らの協力を得て定期的に行われました。コスタリカの森林と海という抜群の環境で行われた数々のシンポジウムは、いろいろな著名な分子進化学者と知り合うことができ大変素晴らしかったことを覚えています。例えば、シンポジウム会場近くには生きたイグアナやオオハシがおり、アルマジロの抜け殻が足元に何気なく転がっているなど、普段、目にする事のない生態に触れる貴重な経験でもありました。

この頃は多細胞生物のゲノムがまだ決定される前の時期であり、ゲノムには遺伝子外領域が多く含まれることがDNAレベルで確認され始めた頃でした。ゲノムの成り立ちと生物進化との関係が注目されており、Bernardi先生は温血動物と冷血動物でのアイソコア構造の違いなどについて活発な議論を先導しておられました。Bernardi先生は、自分の説に反対する研究者も区別なくシンポジウムに招待し、堂々と科学的議論を行うべきだという尊敬すべき主義主張を持っておられて、それをいつも実践されていました。このため、アイソコアを全否定するかのようかなり厳しい論争も面前で繰り広げられ、Bernardi先生ご自身が相当に気分を害されたのではないかと心配になるほどでしたが、会議が終わると遺恨なども全くなく、議論では極めて攻撃的であった研究者とも笑顔で会話されていて、Bernardi先生の懐の深さを痛感した次第でした。余談ですが、分子時計の発見で有名なEmile Zuckerkandl先生も当時このシンポジウムに出席されていました。Zuckerkandl先生は貴族の家柄ということで、ISMEのChairの財政悪

化を憂慮して、所有するお城の売却やアインシュタインの直筆の書簡などを売却して、赤字の穴埋めをしたと本人が言われていたのを思い出し、Bernardi先生にはこういう親友がいるのだと二人で感心したことを覚えております。

2002年にはイタリアのソレントにてSociety of Molecular Biology and Evolution (SMBE)の大会をBernardi先生が主催されました。ソレントはナポリからバスで1時間ほどの温暖な気候に風光明媚な景色の素晴らしい土地で、その頃の季節には街路樹にはオレンジの実がたわわにみのっていました。このときの懇親会はなんとお城を改造したレストランで、古代ローマ時代を彷彿させる演出のもと、煌びやかなフラッグショーから始まり、学術的なシンポジウムとしてBernardi先生ならではの粋な計らいであったように思います。

その後、Bernardi先生はアイソコアの研究を深化され、2005年9月27日に日本遺伝学会の名誉会員に就任されています。

Bernardi先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

日本遺伝学会第93回大会（東京） 収支報告書

〈単位：円〉

収 入 の 部				支 出 の 部	
1. 大会参加費	157名		<u>406,000</u>	1. 会議準備費	<u>268,782</u>
1) 早期 一般会員	109名 × @ 2,000		218,000	1) ホームページ作成費	34,636
一般非会員	11名 × @ 3,000		33,000	2) 動画作成・配信費	26,400
計	120名 早期合計		251,000	3) 予稿集・ポスター作成費	0
2) 直前 一般会員	30名 × @ 4,000		120,000	4) 郵送費	1,320
一般非会員	7名 × @ 5,000		35,000	5) オヴィス・ルームチャージ	55,000
計	37名 直前合計		155,000	6) ポスター会場作成費(Wワークス)	84,700
2. 広告・協賛金収入(税込み)			<u>33,000</u>	7) Zoomアカウント(ビジネス)使用料	54,780
1) 広告費	2社 11,000		22,000	8) カード決済システム使用料	11,946
2) 協賛金	1社(2口) 11,000		11,000	2. 会議当日費	<u>766,416</u>
3. 準備金(日本遺伝学会)			<u>1,000,000</u>	1) 大会本部会場費	403,920
4. 補助金 学習院大学			<u>150,000</u>	2) 大会本部運営費	50,474
5. 振替口座利子	0		<u>0</u>	3) 人件費	194,400
				4) 交通費・運搬費	15,706
				5) 公開市民講座運営費	88,168
				6) YBP賞関連	13,748
				3. 事務手数料	
				カード支払い, 銀行振込, 両替	<u>18,026</u>
				4. 日本遺伝学会準備金返還分	<u>535,776</u>
収入合計			<u>1,589,000</u>	支出合計	<u>1,589,000</u>

The 2021 Multiomics and Precision Medicine Joint Conference (2021MOPM) 体験報告

日本遺伝学会では台湾・日本間の学生の相互交流の一環として、2014年度から Taiwan Society of Evolution and Computational Biology (TSECB) が毎年開催する International Symposium on Evolutionary Genomics and Bioinformatics (ISEGB) に学生2名を選考し、派遣して参りました。2018年度から、派遣された学生から日本遺伝学会に提出いただいた報告書を GSJ コミュニケーションズに派遣体験記として掲載しております。2021年はコロナ禍のため ISEGB は開催されませんでした。その代わりに、TSECB を含む台湾の6つの学会が共催の Multiomics and Precision Medicine Joint Conference (MOPM) が昨年11月13-14日にオンラインで開催され、聴講した日本遺伝学会の学生3名にその様子を報告いただきました。今後も台湾で開催される関連学会に参加する学生を公募する予定ですので、皆さん、この体験記を参考にふるって応募ください。

企画集会幹事 Jeffrey Fawcett

2021 Multiomics and Precision Medicine (MOPM) Joint Conference Report

Beverly Ann G. Boyboy (D1)
Academic Adviser: Dr. Kenji Ichiyanagi
Nagoya University

The opportunity to attend the 2021 MOPM conference gave me new insights and learnings about the state-of-the-art scientific studies and methods that potentially fill the gaps of unknown molecular biology mechanisms and interactions. The different topics presented such as cancer therapy, antibody-drug development, single-cell proteomics, and studying the mechanistic basis of diseases using non-conventional molecular biology vectors or biomolecules were all promising and revolutionary especially in the biomedical research field. For example, the early detection of Parkinson's disease using microRNAs as biomarkers may potentially save patients from this neurodegenerative disease or that new neurological drugs may be developed in the future.

New methods or strategies that potentially cure specific types of cancer were presented in the study. For example, one study presented focused on cancer therapy using antibodies. This learning was new for me since it is a non-conventional method of diagnosing or treating cancer unlike established methods such as chemotherapy, cancer genomics, gene editing, etc. The study reported that therapeutic antibodies can exhibit anti-tumor effects, can act as immune checkpoint inhibitors and has a promising high survival rate for patients.

Some studies used a multi-omics approach in the diagnosis and treatment of diseases like cancer and neurodegenerative diseases like Parkinson's disease and Alzheimer's disease, while other studies focused on exosomal research and targeted therapy. Despite the complexity of integrating different -omics fields like genomics, transcriptomics, proteomics, etc., their results enable more precise and increased diagnostic yield in medicine and public health, as well as a greater understanding of the biological processes behind different diseases. Their experimental design promises higher specificity of their targets and thus the term precision medicine.

2021MOPM レポート

Hao-Wen Hsiao
Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science

I was very honored to have this golden opportunity to attend the symposium of 2021MOPM. I am very interested in how omics technology resolves fascinating biological questions. First, I was impressed by the talk delivered by Dr. Shih-Yu Chen. He reported a systemic profiling in tumor-infiltrating CD8⁺ T cells from various perspectives, such as DNA replication program, DNA damages, chromatin modifications, and even transcription. I also had some questions regarding DNA replication in T cells in the Q&A section for Dr. Chen as my doctoral thesis is focused on replication. He did think DNA replication is dysregulated but this hypothesis has not yet been validated. Another focus of his research aims to harness mass cytometry (CyTOF) technology to map over 50 receptors/molecules in a row in immune cells at single-cell level. This enables high dimensional analysis in cells/

tissues with low cell numbers for subsequent immunologic studies and cancer clinical trials. I am now working on how DNA replication is regulated during T cell differentiation. CyTOF could be a helpful tool to identify target molecules of replication in T cells at single-cell level.

Another talk that inspired me is the one by Professor Ruby Yun-Ju Huang. She is an expert in epithelial-mesenchymal transition (EMT), a key process for tumor cell progression and metastasis. She found out that, in EMT spectrum, different stages of EMT were accompanied with different histone modifications and chromatin state. This drives differential gene expression in each EMT stage, affecting how tumor cells progress and metastasize. This result defines the molecular characteristics in cancer cells in EMT spectrum, especially from the chromatin and histone perspective. One of my current work is to examine chromatin state in immune cells and cancer cells. Prof. Huang's results provide an example for me to follow.

Overall, 2021MOPM broadened my horizons and made me think about some possible tools that could be exploited in my research. I hope there will be another chance to attend this meeting on site and talk to these professors face-to-face in the near future and gain critical opinions from them.

2021 MOPM 参加レポート

埼玉大学大学院理工学研究科
博士後期課程 2 年
塚田耕太郎
2021年11月14日

2021年11月13日（土）および14日（日）に、台湾で開催された The 2021 Multiomics and Precision Medicine Joint Conference (2021 MOPM) に、日本人学生招待枠として参加させていただきました。演題内容は Precision Medicine に関連するものが主であり、それらに加えて Single Cell Multiomics, Genomics, Bioinformatics など、幅広い分野の最新の研究発表も聞くことができました。特に印象的だったのは、10x Genomics 社の Leo Chan 博士の講演でした。当講演で Leo Chan 博士は、10x Genomics 社が開発した TEA-seq についての発表を行っていました。TEA-seq とは、Single cell の transcriptome, protein level, さらには chromatin accessibility を測定する技術で、Single cell の解析技術の中でも一段と目を引くものでした。このような、最新の技術や研究成果を数多く学ぶことができ、とても貴重な体験をさせていただきました。大会運営については、座長が演者の紹介を行った後、あらかじめ収録した発表を流し、質疑応答だけをオンタイムで行う方式でした。そのため、接続トラブルや時間超過もほとんどなく、スムーズに行われました。このような形式は初めての経験でしたが、オンライン開催ではこちらの方が滞りなく進行するので良いと思いました。

最後になりますが、今回の 2021 MOPM に招待していただいた Jeffrey Fawcett 先生、推薦していただいた日本遺伝学会に感謝申し上げます。ありがとうございました。

日本遺伝学会木原賞および奨励賞候補者推薦のお願い

下記の規程に添って2022年度木原賞および奨励賞候補者推薦をお願いします。

【推薦書作成要領】

本誌に掲載された様式に従って作成してください。なお、同様式は遺伝学会ホームページからダウンロードしていただけます。いずれも用紙はA4判を使用して下さい。

(木原賞) 推薦書、業績リストを別紙にて作成し、うち主要な論文5編各3部と郵送して下さい。また、候補者推薦書 (Word)、業績リスト (Word)、論文 (PDF) をメールの添付にて事務局にお送りください。

(奨励賞) 1. 推薦書、業績リストを別紙にて作成し、うち主要な論文2編各3部と郵送して下さい。
2. 自薦の場合も同様式に従って作成して下さい。
(2010年から年齢制限はなくなりました) また、候補者推薦書 (Word)、業績リスト (Word)、論文 (PDF) をメールの添付にて事務局にお送りください。

【提出期限】

2022年5月30日 (月) 必着

提出先：〒411-8540 三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内

日本遺伝学会 Tel & Fax 055-981-6736

日本遺伝学会会長 岩崎 博史

電子ファイル送付先：Email: japgenet@nig.ac.jp

*なお、木原賞および奨励賞の受賞者には当学会誌 Genes & Genetic Systems に英文総説の執筆と、その年に開催されます大会で受賞記念講演をお願いしております。

公益財団法人遺伝学普及会 日本遺伝学会 学会賞および奨励賞に関する規程 (抜粋)

第1条 (目的)

遺伝学の進歩を促し、すぐれた研究業績を一般に知らせるために学会賞および奨励賞を設定する。

第2条 (賞の種類)

1. 日本遺伝学会木原賞
遺伝学の分野ですぐれた業績をあげた者 (原則として会員) に授与する。
2. 日本遺伝学会奨励賞
遺伝学の特定の分野ですぐれた研究を活発に行い、将来の成果が期待される会員に授与する。

第3条 (賞の内容)

1. 日本遺伝学会木原賞
賞状、メダルおよび副賞としての賞金20万円からなる。
2. 日本遺伝学会奨励賞
賞状および副賞としての賞金5万円からなる。
尚、賞状の名義 (発行者) は“日本遺伝学会会長名”とする。

第4条 (賞の選考)

賞の存在が有益であるためには、公正適切な選考を行なうことが不可欠である。これを考慮して選考委員会の規程および選考方法を定めるものとする。

1. 選考委員会

選考委員は、普通会員、シニア普通会員、シニア永年会員、学生会員を対象として評議委員会により選挙で選出された評議委員より3名、評議委員以外の会員より3名とし、これに会長を加えた7名が選考委員会を構成する。会長以外の選考委員は任期を2年とし、連続して2期 (4年) をこえ選考委員としてとどまることはできない。選考委員の委員長は会長がつとめるものとする。選考委員は財団理事会の承認を得るものとする。

2. 選考方法

会員から推薦された候補者について選考委員が慎重に審査を行い、受賞者を決定した上で評議委員会及び財団理事会の承認を得るものとする。日本遺伝学会木原賞受賞者については原則として各年1名とするが、適当な候補者がいない場合は授賞は行なわないものとする。日本遺伝学会奨励賞については各年2名以内を選ぶものとする。

附 則

昭和57年11月20日 日本遺伝学会総会承認

昭和60年10月14日 一部改正

昭和63年2月6日 一部改正

1989年10月14日 一部改正 日本遺伝学会総会承認

1992年10月23日 一部改正

2005年4月4日 一部改正 〈選挙方法〉および〈補足〉

2009年9月17日 一部改正 日本遺伝学会総会承認

2016年5月16日 この規程は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律に定める公益法人の変更認定申請に基づいて、定款の変更が成された日から施行する。

2019年9月12日 一部改正 〈選考委員会〉

2022年度日本遺伝学会木原賞候補者推薦書

2022年 月 日

推 薦 者	
(ふりがな) 氏 名	印
職 名	
連 絡 先	〒 TEL: FAX: E-mail:

受 賞 候 補 者	
(ふりがな) 氏 名	(西暦) 年 月 日生
職 名	
連 絡 先	〒 TEL: FAX: E-mail:

【略 歴】	
-------	--

受賞候補者（ ）氏の推薦理由等	
研究題目	(和文)
	(英文)
【推薦理由】	
<p>(紙面不足の場合は別紙 [A4 判] に記載し、添付して下さい)</p>	

注：候補者の主な発表論文のリストを別紙（紙は A4 判を使用）に掲載し、うち主要な論文 5 編 3 部ずつを郵送して下さい。ここに示した推薦書に必要な情報が記載してあれば、用紙（A4 判）は別紙でも結構です。

提出期限： 2022 年 5 月 30 日（月）必着

提出先： 〒411-8540 静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内 日本遺伝学会
TEL & FAX 055-981-6736

2022年度日本遺伝学会奨励賞候補者推薦書

2022年 月 日

推 薦 者 (自薦の場合、職名、連絡先は不要)	
(ふりがな) 氏 名	印
職 名	
連 絡 先	〒 TEL: FAX: E-mail:

受 賞 候 補 者	
(ふりがな) 氏 名	(西暦) 年 月 日生
職 名	
連 絡 先	〒 TEL: FAX: E-mail:

【略 歴】	
-------	--

【遺伝学会における活動歴】	
---------------	--

受賞候補者（ ）氏の推薦理由等	
研究題目	(和文)
	(英文)
【推薦理由】	
<p>(紙面不足の場合は別紙 [A4 判] に記載し、添付して下さい)</p>	

注：(1) 候補者の主な発表論文のリストを別紙（紙はA4判を使用）に掲載し、うち主要な論文2編3部ずつを郵送して下さい。ここに示した推薦書に必要な情報が記載してあれば、用紙（A4判）は別紙でも結構です。

(2) 自薦の場合もこの用紙を使ってください。

提出期限： 2022年5月30日（月）（金）必着

提出先： 〒411-8540 静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内 日本遺伝学会
TEL & FAX 055-981-6736

◆会 員 異 動◆

新入会・再入会

高 山 優 子	320-8551	宇都宮市豊郷台 1 丁目 1 帝京大学理工学部バイオサイエンス学科
斎 藤 絢 介	036-8562	弘前市大字在府町 5 弘前大学附属病院腫瘍内科
松 沢 歩	113-8510	文京区湯島 1 丁目5-45M&D タワー 7 階先端医歯工学創成クラスター 東京医科歯科大学難治疾患研究所ゲノム機能多様性分野
西 良太郎	192-0982	東京都八王子市片倉町1404-1 東京工科大学大学院バイオニクス専攻
神 林 千 晶	526-0829	長浜市田村町1266 長浜バイオ大学 バイオサイエンス研究科
佐久間 敦 丈	152-8550	大岡山2-12-1-W3-43 612号室 東京工業大学生命理工学院
庄 司 日 和	606-8507	京都市左京区聖護院川原町53 京都大学ウイルス・再生医科学研究所 ウイルス共進化分野
佐 倉 沙耶香	171-8501	豊島区西池袋 3 丁目34-1 立教大学理学研究科生命理学専攻
田 邊 彰	565-0871	吹田市山田丘103 大阪大学生命システム棟 3 階 E301 理化学研究所 生命機能科学研究センター 高速ゲノム変異マウス 作製研究チーム
守 屋 綾 乃	171-8588	豊島区目白 1 丁目 5 番 1 号南 7 号館 安達研究室 学習院大学自然科学研究科
大 林 龍 胆	226-8503	横浜市緑区長津田町4259R1-29 東京工業大学 科学技術創成研究院 化学生命科学研究所
歐 陽 允 健	812-8582	福岡市東区馬出 3 丁目1-1 九州大学 生体防御医学研究所 エピゲノム制御学分野
小 林 慎	135-0064	江東区青海2-4-7 産業技術総合研究所
正 井 久 雄	156-8506	東京都世田谷区上北沢2-1-6 公財) 東京都医学総合研究所
松 久 恵巳子	226-0014	横浜市緑区台村町800 神奈川大学附属中・高等学校
小 川 雅 文	192-0397	八王子市南大沢 1 丁目1-1 8 号館417号室 東京都立大学理学研究科生命科学専攻進化遺伝学研究室
岸 野 廉	171-0021	豊島区西池袋3-34-113号館 4 階 C411 立教大学大学院 理学研究科
菅 野 妃 那	171-8501	豊島区西池袋 3 丁目34-1 立教大学大学院 理学研究科
早 川 奈 緒	669-1337	兵庫県三田市学園 2 丁目 1 関西学院大学大学院 理工学研究科
田 島 美 怜	669-1337	三田市学園2-1 関西学院大学大学院 理工学研究科
徳 安 碧	860-0816	熊本市中央区本荘2-2-1 エイズ研究センター 6 階 602 熊本大学 生命資源研究・支援センター 疾患モデル分野
高 梨 穂乃花	156-8502	世田谷区桜丘 1 丁目1-1-1 東京農業大学生命科学研究科 バイオサイエンス専攻
尾 崎 拓	606-8502	京都市左京区北白川追分町 京都大学理学研究科生物科学専攻
丸 谷 美 結	669-1337	三田市学園2-1 関西学院大学理工学部・生命科学科・関研究室

牧野 愛子	700-8530	岡山市北区津島中3-1-1 岡山大学自然科学研究科
熊取谷 健志	631-8505	奈良市中町3327-204 近畿大学農学研究科バイオサイエンス専攻分子生物学研究室
堀 優太郎	113-0032	東京都文京区弥生1-1-1 東京大学定量生命科学研究科ゲノム再生研究分野
平井 隼人	153-8902	目黒区駒場3-8-115号館314 東京大学 総合文化研究科
越阪部 晃永	113-0033	文京区本郷7-3-1東京大学理学部二号館 東京大学大学院理学系研究科
高橋 達郎	819-0395	福岡市西区元岡744ウエスト1号館 D-807 九州大学大学院理学研究院
徳留 遼	860-0811	熊本市中央区本荘2-2-1エイズ研究センター6F 熊本大学生命資源研究支援センター・疾患モデル分野
舟引 健人	606-8585	京都市左京区松ヶ崎橋上町 京都工芸繊維大学 応用生物学専攻 応用ゲノミクス研究室
野口 微風子	657-8501	神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学大学院 農学研究科 生命機能科学専攻 植物遺伝学研究室
弘田 正樹	669-1337	三田市学園2-1 関西学院大学大学院 関研究室
山崎 慈恵	113-0033	文京区本郷7丁目3-1理学部2号館113号室 東京大学理学系研究科生物科学専攻遺伝学研究室
小田 頌子	113-0033	文京区本郷7-3-1理学部2号館113号室 東京大学理学系研究科生物科学専攻
水成 友紀	819-0395	福岡市西区大字元岡744番地 九州大学大学院システム生命科学府システム生命科学専攻植物多様性ゲノム学研究室
松本 翔	657-8501	神戸市灘区六甲台町1-1農学研究科 神戸大学大学院農学研究科植物遺伝学研究室
紀藤 大樹	464-8602	名古屋市千種区不老町農学部 A 館275室 名古屋大学大学院生命農学研究科
牛 小蛭	060-0810	札幌市北区北十条西8丁目 北海道大学生命科学院形態機能Ⅲ研究室
福富 雄一	192-0397	八王子市南大沢1丁目1 東京都立大学8号館412室 東京都立大学 理学研究科 生命科学専攻
小川 志帆	782-8502	香美市土佐山田町宮ノ口185 高知工科大学 環境理工学群 生命科学専攻 細胞増殖制御研究室
王 莎莎	060-8589	札幌市北区北9条西9丁目北海道大学農学部 北海道大学 大学院農学院
鍾 奕洛		Room 113, Run Run Shaw Science Building, The Chinese University of Hong Kong, Shatin 香港中文大学 生命科学学院
今本 南	152-8550	目黒区大岡山2-12-1-W3-43 612号室 東京工業大学 生命理工学院 二階堂研究室
大矢 恵代	113-0033	文京区本郷7-3-1 東京大学理学系研究科生物科学専攻
三谷 峻馬	770-8506	徳島県徳島市南常三島町2-1 徳島大学大学院 創成科学研究科 理工学専攻 自然科学コース
横山 正明	113-0032	文京区弥生1-1-1 東京大学大学院
矢羽野 柊介	156-8502	世田谷区桜丘1丁目1-1 東京農業大学大学院生命科学研究科バイオサイエンス専攻細胞ゲノム生物学研究室
齋藤 成治	464-8601	名古屋市千種区不老町農学部 A 館274号室 名古屋大学大学院生命農学研究科動物科学専攻

鶴田 匠	812-0054	福岡市東区馬出3丁目1-1 九州大学薬学府分子生物薬学分野
比留木 成美	812-8582	福岡市東区馬出3丁目1-1 九州大学生体防御医学研究所ゲノミクス分野
吉永 翔一郎	631-8505	奈良市中町3327-204 近畿大学大学院農学研究科農業生産科学専攻育種学研究室
古瀬 民生	305-0074	茨城県つくば市高野台3-1-1 理化学研究所バイオリソース研究センターマウス表現型解析開発チーム
Palihati Maierdan	226-8503	横浜市緑区長津田町4259 S2-7 東京工業大学・科学技術創成研究院・細胞制御工学センター
大屋 恵梨子	113-0032	文京区弥生1-1-1 東京大学定量生命科学研究所ゲノム再生研究分野
長澤 耕樹	606-8501	京都市左京区吉田二本松町 京都大学人間・環境学研究科
秦 利衣	260-8677	千葉市中央区亥鼻1丁目8-1 千葉大学医学部附属病院
間瀬 啓介	156-0045	世田谷区桜上水3-25-40 日本大学文理学部生命科学科
石川 冬木	606-8501	京都市左京区吉田近衛町 京都大学大学院生命科学研究所 統合生命科学専攻

(連絡先自宅のため不掲載)

伊藤勇夫, 福本晃久, 内田百岳, 大平純之, GAO YUAN, 田中智崇, 野田俊輔, 大窪健児, 島田 遼, 前田拓海, 湯木就久, 濱本さくら, 上田 聖, 松本彩花, 孫 櫻, 玉井智貴, 谷口彩花, 今成楓河, 須田和奏, 杉本陽平, 大岩航陽, 孫 夢陽, 石崎裕介, 寺島 楽, 久世 陸, 萩原遥太, 畑中龍平, 酒井杏花, 山本廉太, 中野咲良, 伊藤雅彦, 松田 寛, 菅原昇三

退 会

徳下貴一, Shao Zhenhua, 張 琳, 高橋慶祐, 嶺井隆平, 速水小夜, 味舌環吾, 久保田凌, 藤崎花美, 徳留 遼, 作見邦彦, 室伏 誠, 角 友之, 荒西太士, 明正大純, 近藤嘉則, 木寺夏穂, 中村峻大, 渡邊励人, 北野 誉, 中尾聡宏, 荻野竜司, 三浦翔太郎, 大野知幸, 堤 優樹, 横山広希, 加納啓吾, 鈴木拓弥, 大澤研二, 上山盛夫

寄贈図書・交換図書

科学	Vol. 91	No. 6	(2021)
	Vol. 92	No. 2	(2022)
統計数理	Vol. 69	No. 1	(2021)
CHINESE QINGHAI JOURNAL OF ANIMAL AND VETERINARY SCIENCES	Vol. 51	No. 2-4	(2021)

(公財) 遺伝学普及会所属日本遺伝学会運営規則

公益財団法人遺伝学普及会（以下財団という）定款第38条、及び公益財団法人遺伝学普及会所属研究団体等に関する規程に基づき、当財団に所属することが認められた日本遺伝学会の運営については以下の通りとする。

- 第1条 所属団体としての名称は日本遺伝学会（以下本会という）と称する。
- 第2条 本会は遺伝に関する研究を奨め、その知識の普及を計ることを目的とする。
- 第3条 本会に入会しようとするものは所定の用紙に記入して財団事務局に申し込む。
- 第4条 本会会員は普通会員、シニア普通会員、シニア永年会員、学生会員、教育会員、機関会員、賛助会員および名誉会員とする。ただし、年会費滞納が当該年度を超えて1年以上におよぶものは会員資格を停止する。
- 1) 普通会員は年会費10,000円を納める。
 - 2) シニア普通会員は、定年退職して常勤職でないことを申し出た者とする。以降の年会費6,000円を納める。会長および評議委員の被選挙権は有しない。
 - 3) シニア永年会員は、当学会に5年以上在籍する65歳以上の普通会員もしくはシニア普通会員が、初回のみ30,000円の永年会費を納入して資格変更でき、以降の会費および大会参加費の納入は免除される。会長および評議委員の被選挙権は有しない。
 - 4) 学生会員は、在学証明書またはそれに代わるものを提出することで、初年度の年会費を免除し、2年目以降は3,000円を納める。
 - 5) 教育会員は、小・中・高等学校等の教育機関の教員を対象とし、年会費2,000円を前納する。会長および評議委員の被選挙権は有しない。
 - 6) 機関会員は15,000円を、賛助会員は1口（20,000円）以上を納める。
 - 7) 普通会員、シニア普通会員、学生会員および教育会員が休職および海外留学をする期間の休会を申し出たときは、その期間中の年会費を免除する。
- 第5条 本会は次の者を財団理事会の決議により名誉会員の称号、あるいは特別功労賞を授与することができる。本会に功労のあった者、外国の卓越した遺伝学者。
- 第6条 本会は隔月1回 Genes & Genetic Systems を発行する。印刷体は機関会員、賛助会員、および希望する普通会員と学生会員に配布する。印刷体の送付を希望しない普通会員と学生会員は年会費を500円減額する。特に希望がある場合を除き、シニア普通会員およびシニア永年会員には印刷体を送付しない。
- 第7条 本会は毎年1回大会を開く。大会は総会と講演会とに分け、総会では会務の報告、規則の改正、運営委員候補者の選挙および他の議事を行い、講演会では普通会員、シニア普通会員、シニア永年会員、学生会員、教育会員および名誉会員の研究発表をする。
大会に関する世話は大会委員若干名によって行い、大会委員長は財団理事会の承認を得て会長が委嘱する。大会は臨時に開くことがある。
- 第8条 本会は各地に談話会をおくことができる。
- 第9条 本会を運営するため運営委員として会長1名、幹事若干名、会計監査2名の役員、および評議委員若干名をおく。以下の手順で選出された運営委員候補者および評議委員候補者は全て財団理事会の承認を得るものとする。
- 1) 会長は本会を代表し、会務を統轄する。
 - 2) 会長は、評議委員が普通会員および学生会員の中から選出した複数の候補者から、普通会員、シニア普通会員、シニア永年会員、学生会員による直接選挙によって選出される。
 - 3) 評議委員は、普通会員および学生会員の中から、普通会員、シニア普通会員、シニア永年会員、学生会員による直接選挙で選出される。
 - 4) 幹事は、会長が推薦する候補会員を評議委員の過半数が承認することにより選任される。
 - 5) 会計監査は、会長が推薦する候補会員を評議委員の過半数が承認することにより選任される。
 - 6) 会長は評議委員会を招集し、その議長を務める。幹事は評議委員会に出席するものとする。
 - 7) 評議委員会は会員を代表して、本会の事業計画、経費の取支、予算・決算、学会誌の発行、大会の開催、その他重要事項について審議し、出席評議委員の過半数をもって草案を議決する。議決された事項は財団理事会の承認を得るものとする。評議委員会は全評議委員の3分の2以上の出席をもって成立とする。やむおえない事情の場合、委任状の提出あるいはオンライン参加も参加とみなすことができる。
 - 8) 会長ならびに幹事により幹事を構成し、会長がこれを代表する。
 - 9) 幹事会は、本会の関連事項を論議し評議委員会に諮ると共に、会務を執行する。
 - 10) 会計監査は、本会の会計を監査する。
- 第10条 運営委員および評議委員の任期は2カ年とする。会長および評議委員は連続三選はできない。
- 第11条 本会の事務年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 付則 この規程は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律に定める公益法人の変更認定申請に基づいて、定款の変更が成された日から施行する。
- 付則 平成29年9月12日に第6条を改正し、平成30年4月1日から施行する。
- 付則 平成31年3月8日に第11条を改正し、平成31年4月1日から施行する。
- 付則 令和1年9月12日に第1条、第5条、第6条、第7条、第8条、第9条を改正し、令和1年9月13日から施行する。
- 付則 令和2年9月18日に第9条を改正し、令和2年9月19日から施行する。

<p>Genes & Genetic Systems 第97巻1号（付録） 2022年4月6日発行 非売品 発行者 岩崎 博史 印刷所 レタープレス株式会社 Letterpress Co., Ltd. Japan 〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809-5番地 電話 082 (844) 7500 FAX 082 (844) 7800</p> <p>発行所 公益財団法人 遺伝学普及会 日本遺伝学会 Genetics Society of Japan 静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内</p>	<p>学会事務取扱 〒411-8540 静岡県三島市谷田・国立遺伝学研究所内 公益財団法人 遺伝学普及会 日本遺伝学会 https://gsj3.org (電話・FAX 055-981-6736) (振替口座・00890-1-217316) 加入者名・日本遺伝学会</p> <p>国内庶務、渉外庶務、会計、企画・集会、将来計画、編集などに関する事務上のお問い合わせは、各担当幹事あてご連絡下さい。 乱丁、落丁はお取替えます。</p>
--	--